



「飛騨市学園構想—これまでとこれから—」の策定に関わっていただいたコアメンバーの皆さん

飛騨市学園構想ってなに？

飛騨市学園構想とは、予測困難な時代を生きる子どもたちに「自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手」となる力を育んでもらおうと、市教育委員会が進めている「地域教育魅力化プロジェクト」です。2019年から取り組みをはじめ、今年で7年目を迎えました。

何をめざしているの？

第1章(2020年4月～2023年3月)では、教育や人づくりに関する市の方向性やその実現に向けた方策を検討し、「飛騨市学園ビジョン」を定めて「育成したい資質・能力」を明確化し、プロジェクトを進めました。

第2章(2023年4月～2026年3月)では、変化の激しい社会を前向きに切り拓くため、さまざまな出来事に「面白がって」挑戦していくことを中心に据え、「目指す未来の創り手像」が育つための「創りたい地域像」をまとめ、学校ごとに特色ある取り組みを進めてきました。

どんな変化があったの？

全国学力・学習状況調査で、令和4年度と6年度を比較すると、児童生徒の意識に大きな変化が見られました。「地域や社会をより良くするため何かしたい」「自分には良いところがある」と回答した地域貢献への関心や自己肯定感のある児童の割合が上昇し、全国平均を大きく上回っています。

■地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか？

令和4年度 小学校14.8%、中学校11.5%



令和6年度 小学校**40.1%**(全国36.8%)
中学校**43.9%**(全国26.4%)

■自分には、よいところがあると思いますか？

令和4年度 小学校27.5%、中学校50.3%



令和6年度 小学校**52.2%**(全国43.4%)
中学校**52.9%**(全国40.4%)

R4～6年度の全国学力・学習状況調査の結果より

飛騨市学園構想の 取り組みに向けて 皆さんから寄せられた 主なご意見

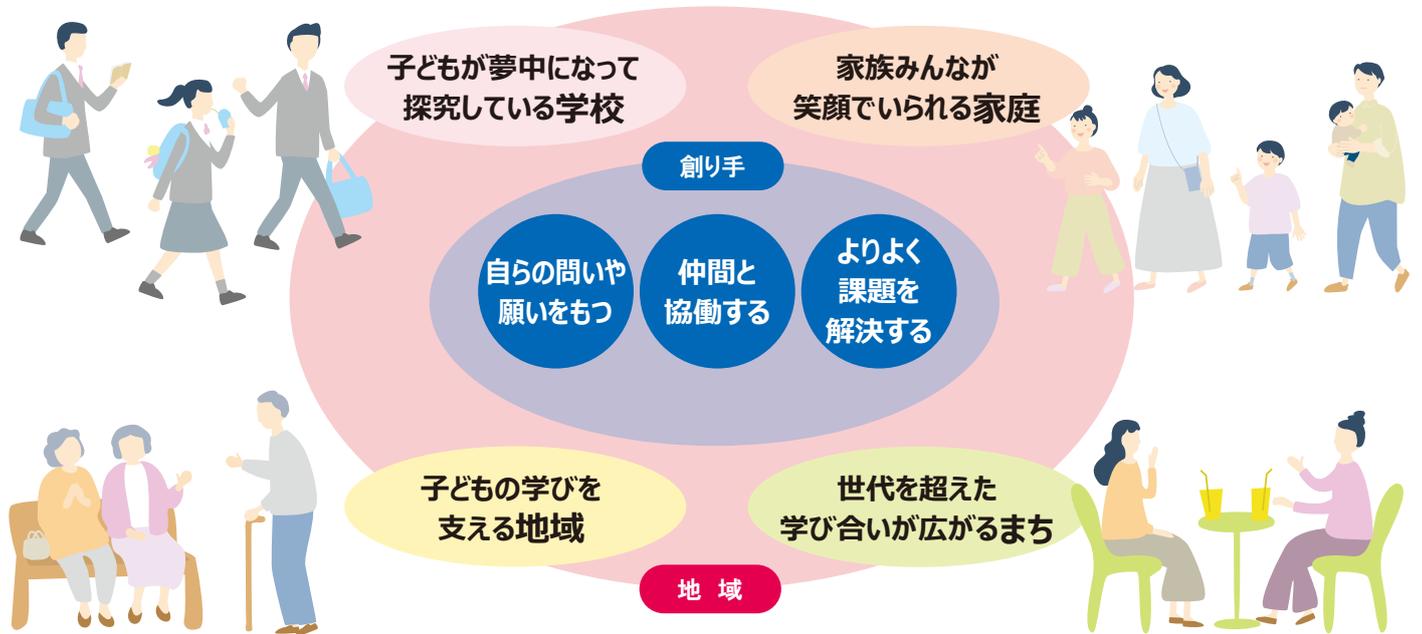
- 学びが自分や社会とどうつながるかを主体的に実感することが大切
- 自分の好きなこと、興味があることでつながる仲間に出会える場があることは素敵だと思う。世代を超えたコミュニティが小さくても、多種多様だと探す楽しさがある
- 意欲をもって学習してほしい。自ら考え実行する力をつけてほしい。楽しんで学校にいてほしい。地域の良さを知ってほしい
- 学びは学校の中だけではなく、地域の中でさまざまな人と関わる中で広め、深めていくことが子どもたちのみならず地域の人々にとってもよいことだと思う

そして、新たなステージへ 飛騨市学園構想 —これまでとこれから—

目指す未来の創り手像

志を語り合いしなやかに挑み続ける 飛騨びと

志を語り合い、しなやかに挑み続ける人が、未来の民主的で持続可能な社会を創る。
これからの市の発展に貢献する「人づくり」に向けて、子どもたちの成長に3つの願いを込めました。



創りたい地域像

みんなで育て みんなが育つ 魅力あるまち

みんなで育て、みんなが育つまちで学び続けてこそ、子どもたちは未来の創り手になることができる。
こうした地域の姿を「学校」「家庭」「地域」「まち」の4つの領域に分けて考えました。



ほりた しおり
堀田 菜里さん
(神岡中学校3年生)

取組みでの学びが、将来の選択肢を広げてくれました

1年生「飛騨市探Q」では飛騨の自然、2年生「企業クエスト」では老田屋さんのパッケージやPOP製作をしました。

3年生「未来探Q」では飛騨の良さを広めようと葉草キーホルダーの制作や販売を行いました。買い手の気持ちを想像し、見えない所で細かな工夫を凝らす大切さを学びました。普段の生活では得られない「相手に喜んでもらうための視点」を身につけることができました。苦労もありましたが、少しずつ出来上がっていく過程が楽しかったです。

企業クエストで学んだ「美味しそうに見える色」などのデザインの知識は、将来の選択肢を広げてくれました。また、接客を通じて学んだ「明るい挨拶」や「笑顔」の大切さを、今後の生活でも大切にしていきたいです。



まつもと さとえ
松本 里江さん
(中学生保護者)

地域の皆さんに育てられ感謝の気持ちでいっぱい

飛騨市ゼロカーボンガイドの作成に携わることで、息子は身近なごみの分別の大切さが分かったようで、年末の大掃除でも率先して紙やプラスチック、段ボールの分別の戦力になってくれました。

また、飛騨ジュニアウインドオーケストラでの活動では、仲間とともに努力してより良い演奏をする感動を得られました。顧問の先生への尊敬、地域の方々や仲間への感謝の気持ちを家庭でも言葉にしています。

どちらの取組みでも、たくさんの方々のお知恵とご支援をいただき、皆さんに育てていただいていると感謝の気持ちでいっぱい。元気に生き生きと仲間と成長している姿を見て感動しています。私自身も地域のためにできることを考え、行動したいです。



野村 俊巳さん
(河合小地域学校協働活動推進員)

「子どもだって何かできる」を支える地域や大人になりたい

河合小学校運営協議会や地域学校協働本部「ここあ」の立ち上げに参加しました。「ここあ」の学校活動部では本物体験や企業による社会科学習など、地域活動部では「河合っ子マルシェ」「小農塾」「ここあ運動教室」を企画、実施しました。

少子化が進む中で、「子どもだって何かできる」という思いで始めた「河合っ子マルシェ」では、河合のよさを発信することや自分で考えて自分で動くこと、さらには相手(お客様)を意識した関わり方、自分のよさへの気づきを感じられるようになりました。

子どもたちは、河合っ子マルシェで「自分たちの力だけではどうしようもできない」ことに直面したときに「大人の力を借りよう」「地域の人に相談してみよう」という体験をし、大人や地域の人との結びつきを作るきっかけになったと思います。

「どう大人や地域と関わるか」はこれからの社会をつくっていく大切な力です。「子どもでも何かできる」という思いが「頼れる面白い大人がいる」「ありのままの自分を受け入れてくれる地域がある」という環境の中で膨らんでいくと思います。そんなすてきな地域になることを期待しています。



山本 祐也さん
(山之村小中学校教員)

他者と関わりながら課題を乗り越える喜びを味わって

『自分らしさ』×『山之村らしさ』×『伝える相手』をテーマに『山っこプロジェクト』を進めました。

全校児童生徒10人がそれぞれ各教科の学びを活かし、地域の方々の力を借りながら展開。特に、学校にあるピザ窯を十数年ぶりに復活させて焼いた『究極の山之村ピッツァ』はすぐれた取組みで、多くの方に喜んでいただけました。

児童生徒たちは「山之村の良さを多くの人に知ってもらい、来てほしい」という共通の願いのもと、自己課題を設定し、一から計画を立て、試行錯誤しながらカタチにしました。その姿からは、生き生きとしたエネルギーの高まりが感じられました。

地域の方々からほめられたり感謝されたりした経験は、児童生徒の自信となり、「自分も地域の役に立てている」という自己有用感の高まりにもつながったと感じています。

こうした変化が起きたのは、子どもたちの願いを肯定的に受け止め、快く協力してくださった地域の皆さんや地域学校協働本部の方々のおかげです。まさに『みんなで育てみんなが育つ魅力あるまち』だと感じます。

子どもたちには成功体験を積み重ねることで「自分も地域や社会の担い手の一人だ」という感覚を味わってほしいです。困難や失敗を経験しながらも、他者と関わりながら課題を乗り越える喜びも味わってほしいですね。

飛騨市学園構想は、どなたでも気軽に関われます

知る

飛騨市学園構想—これまでとこれから—のリーフレットを作成しました。市役所や各振興事務所、地域のコミュニティセンターや図書館などで配布しています。また、市ホームページでも公開しています。

まずは、これまでに子どもたちや地域の皆さんが取り組んできた事例やその成果、今後めざす方向性について理解を深めるところから始めませんか。



見る

各小中学校では、児童生徒がそれぞれ関わってきた取組みの中間発表や成果発表をする機会を毎年設けています。

また、子どもや各種団体が一堂に会して取組みを発表する「探究フェス」などのイベントも開催されます。

各戸に配布されるチラシや市ホームページでイベント情報をチェックして実際に足を運んでみてください。

子どもたちの元気で生き生きとした発表を見て聞いていただくだけでも、飛騨市学園構想の魅力をも十分に感じていただけます。

行動

子どもたちの活動をサポートする取組みを行っているさまざまな団体が地域にはあります。登下校の見守りを行う「古小サポーター」「コミスクふるにしサポーターズクラブ」の皆さん、部活動の地域移行にともなって活躍の場が広がった地域クラブの指導者の方々など、自分の得意分野や興味のある分野のサポートを、自分のペースで関わられる場もいろんな形で用意されています。

また、地域でご自身の探究活動を始めることも可能です。わくわくしながら学びを深める飛騨市民カレッジも、飛騨市学園構想の大切な取組みの1つです。

問 学校教育課 ☎0577-73-7494